La Informilo de Nagoja Esperanto-Centro

センター通信 第289号　　2018年8月22日発行

発行：名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro

461-0004 名古屋市東区葵一丁目26-10ユニーブル新栄301号

公式サイト　http://nagoya-esperanto.a.la9.jp/

Facebookページ　https://www.facebook.com/nagoja.esperanto

郵便振替口座 00840-8-40765 「名古屋エスペラントセンター」

愛知サマーセミナー講座風景

目次

第30回愛知サマーセミナー(山口眞一) 2

Ran Luv さんを迎えて(山口眞一) 5

Bart Demeyere父子来訪顛末記(伊藤俊彦) 6

東海エスペラント大会の報告(永瀬義勝) 8

Vidindaj Lokoj en kaj ĉirkaŭ Nagojo (1) (Yamaguti Sin'iti) 9

NECマニラへ本を贈る(山田義) 11

今後の地区の予定 12

活動日誌 13

新入会員・会員近況・編集後記 14

第30回愛知サマーセミナー

山口眞一

昨年に引き続き、愛知サマーセミナーに、名古屋エスペラントセンターとして講座「国際語エスペラント」を出講するかたちで参加しました。

愛知サマーセミナーとは、愛知県内の私学関係者を中心に、教員、父母、生徒、市民がボランティアで毎年開催している、国内屈指の自由学校のことです。今年は2124講座、参加者は7万人近くあり、年々規模が拡大しています。

開催日は7月14・15・16日の三日間。場所は椙山学園（大学、高校、中学）およびその周辺施設。エスペラントの講座はそのうち、14日の２回、椙山女学園大学で開催しました（第1限9:30-10:50,第4限14:50-16:10）。各回内容は同じ単発講座です。

分厚い講座一覧表には、次の案内文が掲載されています。

> 講座名「国際語エスペラント」：エスペラントは中立公平で学習容易な国際共通語です。エスペラントとはどんな言葉か、またこの言語を学ぶことで得られる知見や体験について、紹介をします。

講師は私（山口）が担当し、スタッフとして、永瀬、山田、鈴木、前田、堀田の委員各氏に教室設営や資材運搬などで助けていただきました。他に小川博仁、後藤みわこ、江崎雅康、佐藤順のみなさんに見学（サクラ参加）していただきました。

２回の講座を通じ、講師、スタッフおよびサクラも含む述べ参加者は28人。うち、高校生・専門学校生の受講は8人（同朋高校、東邦高校、岡崎城西高校など）。一般市民の受講も6人程ありました。昨年の受講者が少なかったせいなのか、割り当てられた教室が小さく、机が足りなくなるほど、想定以上に集まっていただきました。

今回、講師として私が心がけたことは、「語学としてのエスペラントを教える」のではなく、「国際語エスペラントの魅力をプレゼンテーションする」ということです。そのため、テキストは使わず、Keynote　（Macintoshで使うプレゼンテーションソフトで、Windowsで使うPower　Pointに相当）で作成したスライドを、プロジェクタで投影して講座をすすめていきました。このソフトは文字・図表だけでなく、音声や動画も扱うことができるので、これらの特性を生かして視聴覚にうったえる内容としました。また、高校生を相手にする、ということを極力意識して、内容を易しく、また関心をひくような題材　—SNSやボーカロイド、ことのはアムリラートなど— を取りあげることをこころがけました。

実際の内容は次の5つの柱から。

1. 国際語ってなんだ？
2. 英語＝国際語？
3. エスペラントはどんな言葉？
4. エスペラント使用の実際
5. エスペラントの初歩を学ぼう

スライドのうちの1枚

表紙なども含めたスライド枚数は合計で43枚。正味70分の授業のうち、1・2・3で15分、4で20分、5で30分と想定してリハーサルもしました（自室でぶつぶつと話しながら時間を計測するだけですが）。しかし実際には想定通りにはいかないものですね。やはり時間が足りなくなってしまい、最後の方は端折ってしまいました。内容をもう少し絞るべきだったと思います。このKeynoteで作成したファイルは、Power Point や一般の動画形式にも変換できますので、興味のある方には配布することができます。これを第1弾として、翌年以後すこしずつ内容や見せ方を工夫することでバージョンアップしたいと考えています。

受講者には最後にアンケートおよび感想文を提出してもらいました。アンケートはこちらが作成したものです。アンケートは17人分が回収され、学習経験があると答えた5人のうち4人は関係者、1人は「ことのはアムリラート」で学習した初心者でした。学習経験のない12人についてみると、5人は「エスペラントの存在じたいを知らなかった」と答え、講座内容については10人が「おもしろかった」、3人が「易しかった」と評価しました。その一方で、「国際語としてふさわしいのは？」の設問には英語とエスペラントとが拮抗する結果となりました。両方に○をつけて「理想はエスペラントだが現実は英語」とした意見がありました。これが大方の受けとめ方でしょうし、過度に英語を排撃することは得策ではないので、次回からは、「英語は実利をもつけれども、英語にはない利点がエスペラントにはある」ことをアピールできるとよいと思いました。また、今後の学習希望については2人が「続けて学びたい」、4人が「学びたいが時間がない」、4人が「将来学ぶかも知れない」と回答しました。受講生の多くが高校生であることを考慮すると、これは成果だと思います。連絡先をおしえてくれた2人に対しては、今後事情に配慮したフォローをすることを考えています。

最後に、高校生の感想文からのうちから4通をここに紹介します。

「正確にアメリカのこと伝えているけど今ではエスペラントは広まっていますが。今では実際に勉強しているだけど英語の変わりにエスペラント変えたほうが良い。言語差別をなくすためにもエスペラント語をぜひ広めてほしい。理由は僕がアメリカに5年間暮らしていたせいで日本語がうまく話せない。僕が話せる言葉は英語、フィリピン語が上手に話せるが日本語あまりうまくないのでエスペラントで言語差別をなくしてほしいです。」（原文ママ）（16歳男子）

「エスペラントのことは知ってはいたが、此処まで発達していたとは思っていなかった為、とても驚いた。特に、エスペラント語で歌が作られていることを知らずに、名前だけ、という感じだったので、とても嬉しかった。エスペラント語を話せるだけで無料で泊めてくれる民泊があるなど、実用的なことまで知ることができたと思う。又、ゲームや月刊誌などもあると知って、少し馴染みやすかった。思った以上に簡単で好感が持てた。学べて良かった。」（16歳女子）

「私は今回、国際語エスペラントの講座を受けるまでエスペラントを知りませんでした。私は国際語といったら英語だと思っていたし、何の疑問もありませんでした。しかし英語はイギリスの民族語で、英語が母国語の人たちと、英語が第二言語の人たちとは格差があり不公平であることを知りました。国際語エスペラントは英語よりも文法が簡単で書かれている字すべてを発音するというのもいいなと思いました。英語よりも簡単で世界中に話せる人がいて、エスペラントを話せれば無料でとまれる場所が確保できると考えるとエスペラントいいなと思いました。」（17歳女子）

「私はエスペラントという言葉が何なのか知らなくて、何だろう、と思って受講しました。私は、不規則だったり例外が多いので英語がすごく苦手です。英語が母語の国に生まれたかったなあ、と思っていました。でもエスペラントをたくさんの人が話せるようになればどこの世界の人とも話せるし、旅行も怖くないと思いました。私もエスペラントを話せるようになって海外へ行って色々と話してみたいと思いました。ちょっとエスペラントを知ることができて楽しかったです。」（18歳女子）

Ran Luv さんを迎えて

山口眞一

Ran Luvさんは、イスラエルのエスペランチストで、アムステルダムの大学に在籍する学生です。大学の長期休暇を利用してヨーロッパ各地を巡り、アジアでは日本が初めての訪問となったようです。

エスペラント歴はまだ1年足らずのようですが、充分に通じるだけの力はありました。彼は5月26、27日の関西エスペラント大会に参加していたのですが、「大会と名のつくものに出たのははじめて」だったそうです。

その関西エスペラント大会を終えて、名古屋に来たのが5月29日。私が名古屋駅で迎えることになっていました。約束の4時を過ぎても姿を現さないので心配になり、あちらこちらにコンタクトをとりましたが、ずいぶん経ってからようやく彼から連絡があり、「名古屋駅を寝過ごした」と。どうやら昨晩遅くまで大阪の街をうろつき回り、睡魔に襲われたようです。

この日は、山口宅へ。彼はビーガンベジタリアン（卵も牛乳も摂取しない菜食主義者、エスペラントではvegano, vegetalano）だと堀田さんから情報を得ていましたので、家ではそのように妻が料理に腕を奮ってくれました。私のところでは家庭菜園もあり、新鮮な野菜を食べていただくことができて何よりです。

翌30日は雨でしたが、一日乗車券を使って一人で行動してもらいました。トヨタ産業技術記念館、名古屋城、徳川園などはお勧めだと言っておいたのですが、満足してもらったようです。この日は夕刻から名古屋エスペラントセンターで機関誌発送作業と委員会の会合がありましたが、それを7時に終らせてから、Ranさんには、日本各地の印象、およびビーガンベジタリアンとしての考え方について、ミニ講演をしてもらいました。彼は環境保護の見地からビーガンを志した、ということです。

その後、ビーガン用のレストランをネットで探し当てていましたので、9人でそちらで食事をすることになりました。みなさんご存知のように、ビーガン用レストランというのは日本では極めて少数なのです（東京の日本エスペラント協会近くに最近開店したSOJOというお店は Esperanto-Vegana Kafejo、多くの外国人エスペランチストが訪れるようです）。私が見付けたのは「Live & Lounge VIO」、雲竜フレックスビルにあります。ただ、料理の提供が遅いのとコストパフォーマンスがよくありませんでした。Ranさんにも、他の参加者の皆さんにも、申し訳ないことをしたと反省しています。

その日の夜は堀田さんの単身赴任先に泊まり、翌朝は一人で岐阜に出かけたようです。しかしやはり雨が続き、この時期だからしかたないとはいえ、ちょっと気の毒でした。

Bart Demeyere父子来訪顛末記

伊藤俊彦

５月16日の夜、堀泰雄さんから電話があり、ベルギーのエスペランチスト父子が来日するので、７月19日から21日まで、拙宅で宿泊を引き受けてもらえないかと依頼された。７月３日に来日し、日本各地を回って８月３日に離日する予定で、堀さんが各地のエスペランチストに依頼して旅行計画を立てているとのこと。父親はBart Demeyere といい、エスペラントのオンライン辞書サイトViVoなどを立ち上げた著名なエスペランチストで、51歳。息子はThomasといい19歳のdenaska　esperantistoだとのこと。リスボンでの世界エスペラント大会の直前でもあり、逡巡したが、部屋さえ貸してもらえれば、あとは自分たちで勝手に出歩くという話だったので引き受けることになった。

ほどなく堀さんから詳細な旅行計画が届き、関東から関西を経て、名古屋に着き、その後、八ヶ岳エスペラント館へ向かうとのことであった。７月19日午後に名古屋駅の新幹線出口前で無事に会い、拙宅へ迎えた。その日は、えほんのもりで子どもたちにエスペラントで“La ŝalmisto de Hamelin”（ハーメルンの笛吹き男）を動画にあわせて語ってもらった。翌日の計画について本人に聞いてみると、名古屋滞在中は全く何の計画もなく、何の下調べもしていない、どこかmuzeoへでも行きたい、とのこと。で、Lonely Planet のJapanの巻など見せて、徳川美術館の紹介をしてみたが、あまり興味がわかない様子。結局、７月20日はトヨタ産業技術記念館に一緒に行くことになり、ここで半日過ごした。また、夜は岩倉市内の老舗料理店で名産の名古屋コーチン料理を味わった。

ということで、彼らが拙宅に３泊したあいだ、3食付きでほとんどべったり一緒に過ごすことになり、部屋さえ貸してもらえれば、という当初の話とはずいぶん違った過剰接待気味の展開となった。ただ、おりからの猛暑のさなかに勝手にどこかへ行けと放り出すのも忍びないし、一緒にいる間に、彼の個人史やエスペラントとの関わり、ヨーロッパの現状、難民、第一次・第二次世界大戦、トランプ大統領等々について、ずいぶん議論もすることができて、それはそれで楽しかった。

講演会の開催については、来日前からバートとのメールでのやり取りをして、彼が生まれ、今も住んでいるブルージュについて話してもらうことにしていた。リールの世界大会のときにブルージュを訪れた人もあり、日本でも有名なフランドルの都市である。名古屋エスペラントセンターのFacebookページで２回広報したほか、山口さんが近隣のエスペランチストにメールを送信して参加を募ってくれた。

７月21日、講演会と歓迎会。当日は山口さんがプロジェクタの設置や司会など

をしてくれ、また扇風機を持参してくれた。私が簡単な講師紹介をしたのち、講演となった。当初、バートは冷房設備のないセンター事務所での講演に難色を示していたが、それでも１時間ほど、プロジェクタで豊富な図版や写真を示しながら、ブルージュの歴史や見どころなどについて早口で説明し、何とか乗り切った。講演を聞くために８人が参加していただいた。この猛暑のさなかとしてはまずまずであろうか。講演会終了後、全員が参加して「ぽろ」で歓迎会。冷たいビールにバートの顔もほころび、トーマスともども盛り上がった。それにしても、冷房設備のないセンター事務所で、猛暑のさなかにイベントを行うのは無理があったかもしれない。

思いがけぬトラブルはあるもので、７月22日、やっとバート父子を八ヶ岳エスペラント館に送り出すため中央線の特急に乗せようとして名古屋駅の改札口を抜けた矢先にアナウンスがあり、新守山駅で人身事故があり不通になっているとのこと。仕方がないので、名古屋駅コンコースの喫茶店で、トランプの大貧民で時間をつぶしながら情報収集し、また小淵沢駅で彼らを拾うことになっている二木さんとも連絡しつつ、運転再開を待った。結局、１時間ほどで運転は再開され、ホームまで走って、発車直前の特急に彼らを乗せた（その前日にも名鉄で事故があり、不通となったため、相互乗り入れしている地下鉄でセンターに行くことになった）。そんなこともあったが、バート父子には、当地滞在にまずまず満足してもらえたのではないかと思う。最後に、猛暑のさなか、彼らに会うため冷房もないセンターにまでわざわざ足を運んでくださった皆様に感謝します。

東海エスペラント大会の報告

永瀬義勝

時　5月19日(土)から20日(日)
所　橘コミュニティーセンター(名古屋市)
参加者　18人(不在参加を含む)

5月19日(土)

14時15分から、昨年出版された三ツ石清書簡集 Leteroj de MITUISI Kiyosi を記念して発行者の中山欣司氏と三ツ石氏とも長い友人であり書簡集の中でも何回も言及されている石川一也氏が発表者になり永瀬義勝の司会でシンポ形式で三ツ石氏の多面にわたる言説や生涯について話した。 16時15分からの「熟年夫婦のイタリア」では、伊藤俊彦氏の一年半にわたる本場でのイタリア語留学記の報告を聴いた。夜は同会場で bankedo modesta と称して歓談を楽しんだ。

5月20日 (日)

10時00分に永瀬のフィリピンエスペラント運動視察旅行の報告 から始まり、11時00分には記念講演として、長年にわたるパス ポルタセルボの提供者としての経験から田平正子氏 “Esperanto en mi” の題で話した。13時00分からは永瀬が最近感じているエスペラント語法や、特に若者のメール文に現れる自由奔放な造語を紹介し、エスペラントに内在しているその造語力の豊かさについて語った。

最後に、出席者全員が短く近況報告や目下の興味について報告し、15時過ぎに終了した。

今回の催しは、参加人数等で大会と呼ぶには難があるが、内容が濃い行事であった。

(Revuo Orienta 2018年7月号より、本文を一部修正して転載。)

Vidindaj Lokoj en kaj ĉirkaŭ Nagojo (1)

Tokugawa Arta Muzeo
(徳川美術館)

[ĝenerala informo]

Tokugawa Arta Muzeo estas privata muzeo, kiu situas sur la iama rezidejo de la branĉa familio de *Tokugawa*, kiu estis la plej prestiĝa branĉo de la ŝoguna familio, kaj kiu estris la provincon *Owari*. Ĝia kolektaĵo konsistas el pli ol 12,000 eroj, inkluzive de glavoj, kirasoj, noaj kostumoj kaj maskoj, lakitaj mebloj, ĉinaj kaj japanaj ceramikaĵoj, kaligrafaĵoj, pentraĵoj el *Song*- kaj *Yuan*-dinastioj de Ĉinio, k.a. Nun 9 eroj estas nomumitaj por nacia trezoro, kaj 59 por grava kulturaĵo.

Najbare troviĝas *Hōsa*-biblioteko kaj *Tokugawa*-ĝardeno.

[historio]

En 1910, la 300a jubilea jaro de la fondo de Nagojo, la familio de *Owari-Tokugawa* ekspoziciis ekipaĵojn kaj meblojn posedatajn de *Tokugawa Yoshinao*, la unua feŭdestro de *Owari*. En 1912 profesoroj de Tokia kaj Kiota Imperiaj Universitatoj vizitis la rezidejon por vidi la ekipaĵojn, fotis ilin, kaj ekspoziciis la fotojn en Tokio. Tiel daŭris ekspozicioj kaj raportoj sur artaj gazetoj pri valoraj posedaĵoj de *Owari-Tokugawa*.

Tokugawa Yoshichika (1886-1976), la 19a estro de *Owari-Tokugawa* sentis necesecon konservi kaj publikigi la valoraĵojn de siaj prapatroj, kaj planis konstrui muzeon.

En 1931 fondiĝis fondaĵo "*Owari-Tokugawa-Reimeikai*", al kiu la familio *Owari-Tokugawa* donacis ĉiujn siajn valoraĵojn. En 1932 oni komencis konstrui la muzeon, kaj en 1935 ĝi finkonstruite malfermiĝis al publiko.

[konstruaĵo]

La arkitekturo por la ĉefa domo kaj la suda arkivo estis desegnita de *Yoshimoto Yoshio*. La stilo estas nomata Imperia Krona (*Teikan*) Stilo, karakterizita de tradicia japanstila tegmento sur okcidenta novklasika konstruaĵo. En 1997 la konstruaĵo mem fariĝis konkreta kultura posedaĵo de la ŝtato.

[ĉefaj kolektaĵoj]

El la 9 eroj de nacia trezoro, interalie notindas la bildorulaĵo de la rakonto *Genji-monogarari*, kiu konsistas el 43 pecoj (15 bildaj pecoj kaj 28 tekstaj pecoj). Kvankam tiu ĉi rulaĵo ne estas kompleta sed fragmento, ĝi estas la plej ampleksa el ĉiuj kolektaĵoj de la rakonto.

unu peco el *Genji-monogatari*

Kiam Princino *Chiyohime*, filino de la tria ŝoguno *Tokugawa Iemitsu*, edziniĝis 3-jaraĝa al *Tokugawa Mitsutomo*, la dua feŭdestro de *Owari*, ŝi kunportis kun si multajn ekipaĵojn; ilin faris *Kōami Nagashige*, la plej alta lakpentristo, bezonante tri jarojn. Mebloj, kosmetikiloj, skribaj instrumentoj, incensiloj, k.t.p. Ili estas bele lakitaj kaj okulrabaj eĉ hodiaŭ.

Aliaj 7 eroj de nacia trezoro estas glavoj kaj glavetoj.

Krom tiuj ĉi naciaj trezoroj, ankaŭ aliaj gravaj kulturaĵoj estas vidindaj.

[ekspozicio]

La muzeo havas 9 ekspoziciajn ĉambrojn, inter kiuj 6 estas por konstanta ekspozicio kaj 3 estas por speciala ekspozicio. Per konstanta ekspozicio oni povas scii, kia estis la vivo de mezepokaj altranguloj, teknikaj niveloj kaj artoj. Speciala ekspozicio okazas ĉ. 10 fojojn jare kun diversaj temoj; interalie populara estas ekspozicio de pupetoj kaj instrumentoj altnivele pompaj por princinoj de *Owari-Tokugawa* uzataj dum marta festo.

Krom ekspozicioj la muzeo okazigas ofte kursojn kaj seminariojn.

[utilaj informoj]

adreso: Tokugawa-chō 1017, Higashi-ku, Nagoya-shi
malfermo: 10:00-17:00 ĉiutage
fermo: lundo (se lundo trafas nacian feritagon, la sekvan tagon fermite)
enirbileto: 1400 enoj (komuna kun najbara *Hōsa*-biblioteko)
por aĝuloj kaj studentoj oni donas rabaton
URL:http://www.tokugawa-art-museum.jp

(Yamaguti Sin'iti)

NECからマニラへ本を贈る

蔵書担当委員：山田 義

5月にマニラに行った永瀬義勝さんに託してフィリピンエスペラント青年会の Albert Gamido（写真中央）に渡しました。名古屋エスペラントセンターが保管するエスペラント書籍のうち重複するものの中から次の７冊を選びました。

1) Fundamento de Esperanto
2) Unuaj Libroj por Esperantistoj
3) Zamenhof, aŭtoro de Esperanto
4) Paŝoj al Plena Posedo
5) El japana literaturo
6) Sepdek-sep ŝlosiloj por la japana civilizacio
7) Proverbaro Esperanta

今後の地区の予定

NEC 八ヶ岳の日 (NEC en Jacugatake)

名古屋エスペラントセンターでは山梨県にある「八ヶ岳エスペラント館」で一泊二日の「NEC八ヶ岳の日」を計画しました。宿泊費、夕食朝食の食費、ガソリン代・高速通行費など実費が必要です。**8月末までに事前申込を**。

★問合せと申込み：山田 義まで<yamadapiano@mac.com>

★NEC事務所から八ヶ岳エスペラント館まで車で分乗を希望する方は、
8時までに集まって下さい。（事前申込必要）

☆ 9月9日(日)

13:00 開会、部屋割り
14:00 講演:「私のエスペラント人生」引田秋生さん
15:00 スカイプでLydia Lindla との交流
16:00 読書会:NEC定期読書会 “Ni Legu” を公開します。
（ロシアのプーチン大統領時代の状況をエスペラントで書き下ろした“HOMOJ DE PUTIN“ という本で、Renat kaj Galina [p.77-82]を読みます。）
集合写真や散策や温泉など
18:30 夕食(手作りカレーとサラダ)
19:30 歌の時間:Kune Kantu!
（LA VIVO EN ROZ’ [LA VIE EN ROSE] 、La Sonorilo de Nagasaki [長崎の鐘]）

☆ 9月10日(月)

7:00 朝食準備(パンとサラダ)
8:00 山歩き遠足は 天女山 へ。
昼食は外食
15:00 ——閉会—— 総括と次回への予定、掃除と戸締まり

エスペラント入門講座

9月23日（日）午後2時から6時／9月30日（日）午後2時から6時
2日で計8時間の集中学習で、エスペラントの基礎をマスター。
講師：山口眞一 <syam-z@wa2.so-net.ne.jp>
テキスト：『ドリル式エスペラント入門』
受講料：2000円
エスペラントに興味のありそうな友人をお誘い下さい。

第2回日韓共同開催エスペラント大会

10月12日(金)から14日(日)
NECのブースを設けて、本の販売などを行います。

ワールド・コラボ・フェスタ2018

11月10日(土)から11日(日)。オアシス21「銀河の広場」にて
中部地区最大の国際交流イベント。
NECのブースを設けて、エスペラントの案内をします。

ザメンホフ祭

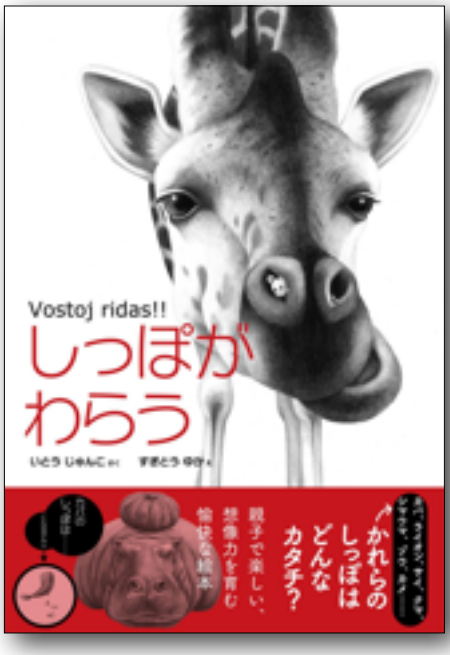
12月1日(土)午後
内容：紙芝居、ゲーム、音楽、本の紹介など。詳細次号にて。

活動日誌（6月から8月）

6/8(金)	17時半~19時半	初級講習会
6/19(火)	16時~18時	読書会
6/20(水)	18時~20時	センター委員会
6/22(金)	17時半~19時半	初級講習会
6/22(金)	11時~15時	蔵書整理
7/6(金)	11時~15時	蔵書整理
7/6(金)	17時半~19時半	初級講習会
7/20(金)	11時~15時	蔵書整理
7/20(金)	17時半~19時半	初級講習会
7/21(土)	16時~18時	講演会(Bart "pri la urbo Bruĝio")
7/22(日)	15時~17時	RH懇親会
7/24(火)	18時~20時	センター委員会
8/3(金)	11時~15時	蔵書整理
8/10(金)	17時半~19時半	初級講習会
8/17(金)	11時~15時	蔵書整理
8/22(水)	17時~20時	「センター通信」発送作業 およびセンター委員会
8/29(水)	16時~18時	読書会

新入会員・会員近況

伊藤俊彦さん（NEC委員）は、このたび日本エスペラント協会の理事に就任しました。職務は出版部副部長。また、第103回世界エスペラント大会（リスボン）では、開会式で日本代表として挨拶をしました。未経験の新任理事が挨拶に立つのが慣例だとか。世界大会には、おなじく委員の永瀬義勝さんも参加しました。



伊藤順子さんが新入会員になりました。夫の伊藤俊彦さんの影響でエスペラント界とも交流を続けています。なお、伊藤順子さんの日本語の絵本「しっぽがわらう　Vostoj ridas!!」が、三五館シンシャより出版されました。いとうじゅんこ作・すぎとうゆか鉛筆画。本体1200円。（右表紙絵）

▶編集後記

○エアコンのないセンターに、このたび、山田義さんより涼風器の提供がありました。いくぶん、夏場は過ごしやすくなるものと期待できます。(猪飼吉計)

○今号よりエスペラント文による"Vidindaj Lokoj en kaj ĉirkaŭ Nagojo"の連載を開始します。委員が交代で執筆する予定です。名古屋（およびその近郊）は観光地としては魅力がない、といわれます。たしかに世界遺産があるわけではありませんが、三英傑の出身地であり、文化や経済の中心地でもありました。食文化にも独特のものがあります。そのような魅力を海外のエスペランチストにも自信を持って紹介できるように、と願って始めたものです。会員のみなさんからの寄稿もお待ちしています。（山口眞一）

センターの会員（維持員）募集中

A:月500円 ／ B:月1,000円 ／ C:月2,000円 ／ D:月3,000円

ランクによる会員資格に差はありません。ランク別及び振込月数を明記して郵便振込（口座番号は表紙タイトル下）へお願いします。メールアドレスがあれば、それもあわせてご記入ください。